

## フランクフルト日本人国際学校におけるキャリア教育とその実践

前フランクフルト日本人国際学校 教諭

茨城県水戸市立見川中学校 教諭 井田 貴宏

キーワード 在外教育施設、キャリア教育、職業体験、フランクフルト

赴任校の概要 (2019年4月現在)

学校名・日本語: フランクフルト日本人国際学校

学校名・現地表記: Japanische Internationale Schule Frankfurt am Main

URL: <https://www.jisf.de/>

### 1 はじめに

フランクフルトはヨーロッパの商業や金融都市として発達してきた都市である。中心部には現代的な高いビルと歴史的な建造物が混在し、その間をメイン川が流れている美しい町である。国際企業が多くあり、外国人や移民の割合も比較的多い。日本の企業も多く進出しており、およそ3,500人の日本人が住んでいる。現在、フランクフルト日本法人会には168社もの会社が登録されており、ヨーロッパでも代表的な国際都市である。

私はこのような環境にあるフランクフルト日本人国際学校に赴任し、さまざまな人と出会うことができた。日本全国から赴任してきた経験豊富な先生方や、趣味や普段の生活を通して知り合った異なる文化や生活習慣をもつ現地の人々、グローバルな視点をもった職種の異なる日本人の方々。このような人との出会いは、私に多くの刺激を与えてくれ、教師としても人間としても成長できたように感じる。また、このような環境で私は「国際社会」ということを身近に感じることで、児童生徒たちの世界のグローバル化の進展に対応する力を育成するために必要なことを考えることにつながっていった。

### 2 フランクフルト日本人国際学校について

フランクフルト日本人国際学校はフランクフルト近郊に位置し、比較的治安もよい地域にある。小学生4年生以上は1人で登校することも許可されている。

私は中学部の教員として派遣され、主に英語や体育の授業を担当した。小学部は各学年2クラス、中学部は単学級、1クラス20人前後という学校規模であるため、学校行事や生徒会活動なども企画・運営がしやすく教師も生徒もさまざまなことにチャレンジできる環境である。

児童生徒は、優秀な生徒が多く、授業や学校行事にも積極的に取り組むことができる。特に英語の授業では発展的な授業を展開することができた。しかし、進路や将来の夢を具体的に決めている生徒は多くはない。中学部の生徒はいつ日本に帰るのか、日本のどこに帰るのかが決まっていない生徒が多くいる。このことが進路の面においては志望校を決めにくいことにつながっていることが面談や生活アンケートにより知ることができた。また、将来の夢については、身近にどのような職業があるのかという情報が少ないのではないかと考える。

フランクフルト日本人国際学校に通う生徒のこのような課題を解決できる教育活動について、私の実践について

て紹介していきたい。

### 3 フランクフルト日本人国際学校での総合的な学習の時間

職業や自己の将来の課題についての取り組みは総合的な学習の時間の活用が適切であると考えます。ここでフランクフルト日本人国際学校の今までの総合的な学習の時間の取り組みを紹介する。

#### (1) 現地校交流行事

フランクフルト日本人国際学校では、いくつかの学年で現地校との交流をする活動を行っている。私の担当していた中学部一年生ではHeinrich-Heine校との交流を毎年実施している。交流は2日間行い、1日目は本校に現地の生徒を招き、2日目は現地の学校に訪問させてもらう。それぞれの学校で1日、学校生活を体験する。希望者は放課後、ホームステイやディナーステイを体験することもでき、ドイツ人の文化や価値観に触れることができる。

また、現地の生徒とのコミュニケーションは主に英語で行っている生徒がほとんどであり、英語の学習を生かす良い機会にもなっている。現地の生徒に日本人学校の紹介や日本の文化を紹介する活動も取り入れ、現地の生徒にも理解しやすくなるよう、工夫して発表する姿が印象的であった。

#### (2) 現地理解活動

フランクフルト日本人国際学校では現地をより深く理解するための活動が充実している。ドイツはビールがとても有名であるが、ワインの生産国としても有名である。特に白ワインは酸味のある味わいが特徴で世界的にも人気が高い。中学部では、その白ワインに使われている白ブドウ（リースリング）の収穫体験を毎年、9月に実施している。フランクフルトから電車で約1時間のリュエデスハイムという町で収穫体験をする。ぶどう摘みを体験しながら、そのぶどうを味見することもできる。ワイナリー見学もでき、なぜこのリュエデスハイムがワインの生産に向いている土地なのか、またその歴史などを学ぶことができる。

#### (3) キャリア教育

中学部2年生では進路指導の一環として、MAZDA社とJAL社への職業体験学習を実施している。MAZDA社ではマフラーの音について考える「マフラー教室」や将来乗りたい車を特殊な粘土で製作する「デザインモデル製作」を体験する。JAL社では営業体験や空港チェックイン体験をさせていただく。丁寧な言葉遣いや商品の魅力を伝えることを通して、働くことの責任ややりがいを実感できる体験である。

### 4 職業講和会

前述の通り、フランクフルト日本人国際学校ではさまざまな活動を総合的な学習の時間に行っている。キャリア教育も、各学年、発達段階を考慮しながら活動を行っている。しかし、日本の公立中学校のおよそ90%の学校が実施している職場体験学習のように、商店街での職業インタビューや連続した5日間の職業体験学習などは日本人学校のおかれた環境では難しい。

日本人学校に通っている生徒は非常に優秀な生徒が多く、さまざまな国で培ったグローバルな視点を生かして将来、国際社会のリーダーとなって活躍することが期待できる。そんな日本人学校の生徒にこそ、より多くの職業人との触れ合いや交流の機会を設定したいと考えた。

フランクフルトは生徒たちの身近なところで働く日本人は多くはないが、1.でも記述したように、フランクフルトは国際都市であり、日本の企業も多くあり、多種多様な職をもった日本人が生活している。私の派遣期間にフランクフルトで出会った日本人の方々と交流の中で、彼らの仕事について、職業観、勤労観について話を聞く機会も多くあった。それぞれ自分の目標や希望、高い志をもって働く優秀な人物ばかりであり、私自身も彼らから多くのことを学んだ。そんなフランクフルトで働く人々とフランクフルト日本人国際学校の児童生徒が交流する機会を設定することができれば、児童生徒たちが将来の夢や進路の決定のきっかけにすることができるのではないかと考えた。

そこで、フランクフルトで働く方々にフランクフルト日本人国際学校に来校していただき、児童生徒に職業観や勤労観などを話していただく「職業講和会」の開催を企画した。この話に多くの企業や人々が賛同してくださり、私が派遣されて2年目の2023年2月に第1回目の職業講和会を実施することができた。情報・広告業、金融業、旅行会社、非鉄金属製品製造会社、電気メーカーなど10社もの企業に参加していただくことができた。

以下は当日の動きと日程である。

対象：小学部5、6年生、中学部

- 13:00 企業の方集合（集会に集まっていたいただき顔合わせ）
- 13:15～ 企業の方に体育館へ移動していただく  
 （企業の方はステージ前に並んでいただく。生徒は集会時の隊形）  
 各企業の方に簡単に挨拶していただく  
 ブースに分かれてそれぞれ企業説明をしていただく  
 （生徒は自由にブースを回り、説明を聴いたり簡単な体験活動に参加）
- 15:10 最初の隊形に並ぶ  
 生徒会長 お礼の言葉
- 15:15 企業の方に退場していただく（集会室に戻り、解散）  
 生徒解散

各企業の方と当日までに2回、職業講和会に向けて事前打ち合わせを行った。各ブースでの活動のすり合わせや発表に使うパワーポイントの確認、生徒に配付するワークシートの内容の精査など、しっかりと準備した。当日は各ブースで会社の製品や部品を実際に見ることができたり、製品に関する実験を行ったり、体験活動をさせてもらったりすることができた。児童生徒たちの率直な疑問や質問に答えていただく時間も設けてもらい、充実した活動になった。



職業講和会全体の様子

さらに翌年の2024年2月に第2回目となる職業講和会を実施した。今回から参加していただく方に保護者の協力も募った。第2回目も領事館、医師、部品製造業、

You Tuberなど9種の職種の方に参加していただいた。

生徒たちはそれぞれの職業についての話に真剣に耳を傾け、体験活動には楽しそうに参加する姿を見ることができた。仕事に対して大変なもの、お金を稼ぐためにするものというイメージをもつ生徒も多かった。しかし、この職業講和会を通して、自分の仕事に誇りをもっている方々、やりがいをもって仕事に取り組む方々の姿を見たり、話したりすることで仕事に対するイメージが変わり、自分の将来について考えてみたいと思う生徒が多かった。参加していただいたフランクフルトで働く方々も、普



各ブースでの活動の様子

段あまり関わることのない児童生徒との交流を通して、改めて仕事に対する思いを再確認できたり、子どもたちの夢や目標となることの喜びを実感していただけたりする機会となったと話してくれた。

## 5 終わりに

私がフランクフルトへ派遣させていただいた3年間という期間でさまざまなことに挑戦することができた。たくさんの方の支えと協力があり、達成できたことが多く、これらの経験は今後の私の教員人生で大きな糧となりこの経験をこれからの教育に生かしていきたい。昨今、教員の業務改善のために多くの学校でさまざまな行事や教育活動が削減されたり、規模縮小が行われたりしている。もちろん行事や教育活動の見直しは大切であり、今後の教員の働き方改革を推進していくためには必要である。しかし、大変だからと言ってすべての行事を取りやめたり、新たな試みを諦めてしまったりするのはなく、私たちは目の前の生徒たちに必要なことを常に考えることが大切であり、必要な教育を行っていくことが「やりがい」になることを忘れてはいけないと感じた。

また、在外教育施設では日本で当たり前に行っていることができなかったり、困難だったりすることがたくさんある。しかし、在外教育施設でしかできないことや、困難なことも少し工夫したり、やり方を変えたりするだけで通常のものと同じ教育効果が期待できることもたくさんある。日本人学校に通う生徒は、将来、国際社会で活躍できる力をもっている生徒が多い。日本人学校での教育はそれだけ、責任が大きいやりがいを感じる。今後、派遣される先生方には私たちの経験を参考に、それぞれの国の日本人学校で活躍してほしい。